

審 議 結 果

審議会等名称：第130回神奈川県総合計画審議会

開催日時：令和元年11月13日（水）14：00～15：30

開催場所：神奈川県庁新庁舎8階 議会大会議室

出席者：◎清家篤、○牛山久仁彦、金子勝、清水みゆき、篠原正治、平田美智子、中崎久雄、
いそもと桂太郎、曾我部久美子、永田磨梨奈、柳瀬吉助〔計11名〕（順不同）
（◎会長、○副会長）

次回開催予定日：未定

問合せ先：政策局政策部総合政策課計画グループ 石川（聖）

電話番号045-210-3064（直通） ファックス番号045-210-8819

審議経過（議事録）：（事務局が委員数30名に対し、この時点で10名の出席を確認し、15名の委員から事前に提出された会長への委任状を含めて計25名となり、半数を超えるため審議会が成立する旨を発言）

1 開会

○ 清家会長：ただいまから第130回神奈川県総合計画審議会を開会いたします。議事に入る前に、今般の風水害につきまして、特に台風19号の水害は神奈川県下にも大きな被害を及ぼしています。亡くなられた方に心から哀悼の意を捧げ、被災された方にお見舞い申し上げたいと思います。県の職員も含めて自治体の職員の方、消防職員の方、警察官の方、自衛隊員の方、大変ご苦労されていると思いますけれども、そうした方々の活動にも敬意を表したいと思ひますし、今日は篠原委員もいらっしゃいますが、私も全国社会福祉協議会の会長を務めておりますけれども、日本全体で延べ150万人近くの人たちが災害ボランティアとして災害の復旧に尽力しています。全国の社会福祉協議会から神奈川県内にも設置されている災害ボランティアセンターに派遣された方々を含めて、社協の方々も活躍されています。そうした方々のご努力も含めて一日も早い復旧・復興をお願いしたいと思っております。

2 議事

議題1 「かながわランドデザイン 第3期実施計画」の評価について

○ 清家会長：本日の議題は、「『かながわランドデザイン 第3期実施計画』の評価について」でございます。本年4月から当審議会においてご議論いただきました「かながわランドデザイン 第3期実施計画」につきましては、7月24日に開催した審議会においてご了承いただき、同日、答申をさせていただいたところでございます。県では、新たに策定された第3期実施計画に基づき県政を推進しているところですが、今後は計画の進行管理及び評価が課題となります。答申にもございますように、評価に基づく毎年度の改善がなされてこそ、計画の目標達成に向けての効率的・効果的な政策運営がなされることと思ひますので、その評価手法について、本日は皆様にご議論いただきたいと思ひます。なお、この「進行管理（案）」、「評価報告書様式案」につきましては、先日10月28日に計画推進評価部会でもご議論をいただいております。そこで審議に先立ち、まず事務局から資料の説明をしていただき、その後、部会での検討の内容について部会長である牛山副会長から報告していただきます。それでは、佐藤課長よろしくお願ひします。

（事務局から資料の説明）

- **清家会長**：ありがとうございます。引き続きまして、部会の検討結果について牛山副会長からご説明をお願いいたします。
- **牛山副会長**：10月28日に開催されました計画推進評価部会での検討内容につきまして、どのようなご意見があったかなど説明させていただきます。先日程行われました部会では、事務局の方から「かながわグランドデザイン 第3期実施計画の進行管理について」と「評価報告書様式」の案が示されましたので、それについて議論させていただき、意見を集約させていただきました。いただいたご意見の概要につきましては、参考資料5にまとめていただいておりますので、併せてご覧いただければと思います。ご意見をいただいていた資料を修正した箇所について報告させていただきます。先ほどご説明のありましたこの資料2「かながわグランドデザイン」の評価報告書の様式について示された案でございます。この中で、県による一次評価の総合分析について、委員の方から「評価がプロジェクト全体として例えば概ね順調であるとなっていたとしても、総合分析では順調ではなかった取組みについても記載していく必要があるのではないか」というご意見をいただきました。資料2の中で、例えば「〇〇を実施したものの、依然として〇〇は、全国平均を全年齢で下回っており、〇〇の見直しが必要である」という形で修正をして意見を反映することといたしました。評価のところでもこのような記載に努めてまいります。次にSDG sを座標軸とした検証についての記載ですが、資料2の別添をご覧くださいませでしょうか。この中でプロジェクトの主な取組みとSDG sのゴールにつきまして、委員の方から「1つのSDG sのゴールには複数のプロジェクトが対応している場合があるので、それについて整理を工夫する必要がある」というご意見をいただきました。そこで評価に当たっては、各ゴールとプロジェクトの対応の整理を工夫してお示ししたいと考えております。また部会の段階では、ゴール1についてのみ記載例を示してはいたしましたが、本日は各ゴールに複数のプロジェクトが対応するイメージとして、ゴールの17まで記載例を追加することとさせていただきます。資料の見直しについては、お話ししたとおりでございますけれども、この他にも意見として「SDG sについては普及啓発をしていくとともに、SDG sを座標軸とした検証の意義やその結果から何がわかるのかを示す必要がある」といったご意見がございました。「プロジェクト毎の評価だけではなくて、プロジェクトの横断的なつながりにも着目して全体評価にもこれまで以上に注力する必要がある」といったご意見、それから「社会環境を表す統計データ等は、他県や全国平均との比較だけではなくて、最も成果の上がっている県との比較を行っていく必要があるのではないか」といったご意見をいただいております。部会において、議論した内容につきましては以上になります。よろしくご審議のほどお願いいたします。
- **清家会長**：ありがとうございます。部会の委員の皆様方にはグランドデザインの進行管理についても様々なご意見をいただき改めてお礼申し上げたいと思います。それでは、ただ今の報告を踏まえまして審議に入りたいと思います。どなたからでもご自由にご意見、ご質問をお願いします。
- **金子委員**：評価基準としてSDG sを座標軸にして行うことに異論ありませんが、SDG sを評価基準にするに当たってどういう経緯で採用しているのかを説明しないと、グランドデザインの頭にSDG sについて説明が書いてあるわけではないので、国連サミットから神奈川県計画にどういう経緯でつながったのかを説明した方が良いのではないかと思います。
- **清家会長**：これはもっともなご意見だと思いますが、事務局いかがでしょうか。
- **佐藤総合政策課長**：実は部会のときにもそのようなご意見をいただきまして、なぜSDG sを座標軸とした検証にしたのかの説明、またSDG sそのものが県民の方にはなじみがないですから、その説明も入れた方が良いのではないかと話がありました。これにつきましては、評価報告書を作成していく段階にお

いて記載していきます。

- **金子委員**：現状でどのように説明しているかを聞きたかったのですが。
- **池田政策部長**：これは30年度の部会報告書でもSDG sを座標軸とした検証をしていく必要があるというような部会の報告をいただきました。昨年度点検をしていく際にもSDG sとそれぞれの事業の因果関係を星取表の形でお示しして、実際に報告書の中にも入れさせていただいています。我々がこれまでやってきた取組みというのは、知事が前回就任してから「いのち輝くマグネット神奈川の実現」ということで、様々な施策を実施していくことによって、県民にとって一番大事ないのちを輝かせる施策を積み上げていこうというような流れでやってきました。SDG sも同じような概念になっているのではないかとということで、我々がやってきたこととSDG sというのは基本的には同一の方向性を向いているだろうということで考えております。我々の施策を着実に積み重ねていく、いわゆるグランドデザインに書かれていることを着実に推進していくことが、まさに国連で言っているSDG sのゴールに結びついていくのではないかとというような考え方で、我々は今、施策を推進しているところです。そうした内容を含めて、評価報告書の中にはSDG sとグランドデザインの関係性について表記をしていきたいと考えています。
- **清家会長**：よろしいでしょうか。
- **金子委員**：例えば、知事が国連のサミットの内容が広がってきているので、我々も神奈川県としてこのSDG sの考え方を採用するとか、積極的に推進するとかということであれば、知事のイニシアティブでやっているということが鮮明になります。あるいは、総合政策課が推進するのであれば、総合政策課の誰が何の責任で言っているのか、議会や県民に対しての説明の所在、責任の所在がはっきりしないまま、何となくこれは流行だからやりましょうとなってしまうと、曖昧すぎてしまいます。誰かがどこかで推進することについて、決定した旨みたいなものが表記されると、責任ある政策の評価基準となると思っています。決して反対しているわけではなく、SDG sは政府広報でも出てきているので、誰がどうして推進することとしたのか、鮮明になった方が理解を得やすいのではと考えています。一般的に早くやりましょうというだけでは理解を得づらいので、何の評価基準なのかははっきりした方が良いと思います。
- **清家会長**：はい、他にいかがでしょうか。
- **篠原委員**：今の金子委員の話ですが、やはり一番大事なことは、評価結果の公表に対して、これをどう工夫するかというのが一番大事だと思います。いつも公表の結果は簡潔に書いてあり、指摘事項のような話を盛り込んだ中で、しっかり説明をすることによって、県民が賛同できるようなものに持って行くことが大事だと思います。せっかく良いことをやっているのだから、県民の皆さんに理解していただく。これがまず第一ポイントだと思います。その辺のところをもう少し、結果の中で工夫することによって、金子委員の言ったようなことを加味した中で、持って行くということが良いのではないかと思います。
- **清家会長**：はい、ありがとうございました。他にご意見よろしいでしょうか。
- **牛山副会長**：ご指摘のように、SDG sが非常に重要だということが、ここでは方向性、考え方として出ていて、ただ、部会でもこれは去年から議論があり、なぜSDG sなのかと。SDG sを重要視している部会委員の方からも意見が出ていました。さらに県の方から知事のお考えも出てきています。最終的には、一つ重要な指標として部会としても評価に使っていかうということで、このような形となっています。ですから、まずは県の政策があって、その上でそういう社会的潮流の中で出てきているものを県としても使っていかうということですから、それは良いと思います。ただ、金子委員もご指摘のように、それをど

う説明されるかというのはまた別の問題だと思いますので、そこは丁寧に説明していくことにすれば良いと思います。

- **金子委員**：お聞きしていると、単純に理解してよいのかと思うところですが、評価部会の中でSDG sが大事だと考えているという意見が多くなった。ついては、こういう評価基準でやりたいと思うから、今も総合計画審議会全体でも諮って、こういう評価でやっていくという合意をとるということであれば、何の問題もないと思います。それが、総合政策課の方針であればよいのですが、経緯が曖昧なのはよくありません。今伺っている経緯なら、それでよいと思います。部会でまとめていく中で意見が出てきて、有力になり、国連でも言っているので、こういう評価基準でどうかということであれば、県議会にも県民に対しても説明していけばよいと思います。だけど、もう一つハードルがあるのは、知事はそれでよいのかということです。そうしたことをどこかで公表していただければ、よりすっきりするのではないかと思います。
- **清家会長**：分かりました。私の理解は、先ほどの説明の中にもありましたように、SDG sを座標軸として政策を位置づけるというように書いてありますので、SDG sにかなっているから特に良い、かなっていないものは良くないというような種類のものではないと思います。ここで行われている施策のこの部分はSDG sが言っていることと関連しているということではないでしょうか。
- **金子委員**：あくまでも評価基準として。
- **清家会長**：と思います。ですから、SDG sにかなうように政策を進めるということになると神奈川の主体性はなにか国連の下請けのようになってしまうから、それではおかしいので、あくまでも神奈川県が主体的に進める政策のこの部分が、SDG sのこの部分と対応するということだと思います。
- **金子委員**：分かりました。要するに知事ではなくて、評価部会の評価基準の座標軸としてどうだという形で出てきて、それを審議会で承認するというプロセスで十分だということですね。
- **清家会長**：はい。そのように私は理解しているのですがそれでよろしいですか。
- **池田政策部長**：県としても、今回のグランドデザインのプロジェクト編の68ページ以降にSDG sについて記載しています。グランドデザインとSDG sの関係性について整理させていただいており、会長が言われたように、評価基準・評価軸にしています。県としても2018年6月に国により「SDG s未来都市」と「自治体SDG sモデル事業」に認定されており、都道府県では全国で1箇所だけということで、あと川崎市や小田原市、鎌倉市など市町村がいくつかあります。都道府県として選定されているのが唯一ということもありますので、先進的な取組みをこれからも進めていきたいと考えています。先ほども申し上げましたが、知事が就任したときに「いのち輝くマグネット神奈川」と言っており、いのちを輝かすためには、医療だけではだめだし、福祉だけ、経済だけではだめで、いろいろな取組みが重なってくることによってできるのだということをまず言っていました。いろいろな場面で、あとから国連がSDG sみたいなことを言っているというようなことも言っていて、知事がそういったことを言ったところに、国連が追い付いてきたみたいな言い方をされている部分があります。県としても主体的にいのち輝くマグネット神奈川を実現すると基本構想で言っており、そういったことをめざすというのは一つの方向性だと考えています。知事もSDG sをやっていくということは基本的な施策の方向性であると考えているところです。ただ、会長が言われたとおり、まずは県の施策をやっていくことが大事なことであり、それが将来的には国連の取組みに結びついていくという認識であることは間違いないと考えています。

- **清家会長**：よろしいでしょうか。
- **金子委員**：はい。結構です。誰が何を言って、どのようにして評価基準にしたかのプロセスが鮮明であれば、何の問題もないと思います。SDG sに反対というわけではありません。
- **清水委員**：今のことと関連して、今の取組みは、知事の非常に先見性があるって先に旗を揚げたということとSDG sの関係を評価軸にしていくということの今の説明は、どの段階で県民に伝わっていくのでしょうか。
- **池田政策部長**：先ほど申し上げたページを見ていただくと分かるのですが、69ページに知事が言っている「いのち輝くマグネット神奈川」が示されています。医療、食、農業、エネルギーから共生までの取組みがありまして、その真ん中にいのちがあると。右の方はSDG sの17のゴールが示されていますが、こうした取組みと関連付けられており、同じような取組みだということを表示させていただいています。どの時点で県民に見せていくのかということについては、基本的にはこうした考え方であるということを経営デザインの中にも書いてきていますし、我々の取組みとしてはこうした形でやっていますということを申し上げてきていますので、一定程度県民には説明させていただいています。それと、計画とは別に、SDG sの推進に関しては、様々な普及啓発の取組みをしています。例えば、SDG sアクションブックということで、なかなかSDG sとはどういうことかといったことが分からない、特に経済との関係があって、中小企業の方などなかなかどういった取組みか分からないといったご意見がありましたので、なるべくわかるような取組み、あるいは小中学生でもわかるような取組みを取り上げていこうということで、普及啓発は別途の方法でやっています。評価の仕方については、評価報告書の中で、こうした形で評価するという中で、SDG sについても評価の一部に使っています、こうした評価を行っていますといったことを整理させていただきたいと考えています。
- **篠原委員**：私見ですが、先ほど説明の中で、比較対象として全国平均ということがありましたが、全国平均よりむしろ先進的な県を比較対象とすることによって、神奈川県としてはどうだという具体的な話をする方が良いのではないかと思います。
- **清家会長**：ありがとうございました。この点について、何か他にございますか。清水委員からもどういう段階でという話もありましたが、私の理解は、少なくとも当審議会を代表する立場から申しますと、当審議会として牛山副会長が部会長を務めている部会に、評価について検討するように委託をしました。その部会において、知事の考え方も考慮されているとは思いますが、あくまでも部会の中で主体的に議論された結果、SDG s指標は神奈川県としてもこれまで様々な施策に使っていることでもあるし、広く人々の間でも理解されるようになってきたので、1つの座標軸として使ったらどうかというご意見で取りまとめられたということです。その答申を受け、1つの座標軸とする評価基準を良しとするかどうかを、本審議会でも議論する段階であると考えています。よろしいでしょうか。
- **一同**：（異議なし）
- **清家会長**：それでは、他のご意見をお願いします。
- **平田委員**：部会でも、かながわ経営デザインのSDG sの説明はとても良かったのですが、ただし場所は真ん中辺に埋もれていて分かりにくいので、是非、最初の方の知事ページの後ろぐらいに入れていただければ、多分すっかり県民にも理解できるのではないかと思います。特に、69ページの下の「いのち輝く神奈川」と「SDG sのゴール」の図は素晴らしいと思いますが、これをもう少し大きくして、最初

のページなどいろいろな所に配置してもらえると、県民としても大変分かりやすいと思います。また、今の説明を受けて、なるほどと思ったのですが、私は県民の代表として思うのですが、神奈川県は何となく東京の隣で、埋もれているという訳ではありませんが、あまり神奈川の特徴というのが、出るよう出ないということがあるので、例えば、県の取組みが評価され、国のSDGs未来都市と自治体SDGsモデル事業に全国唯一で選ばれるとか、国際都市で外国人が住みやすいなど、強みをもう少し強調して、県民も「神奈川ならではの」と分かるような見せ方とか広報などをしてもらえると良いと思います。SDGsそのものは素晴らしいと思います。

- 清家会長：ありがとうございました。他にご質問、ご意見等ございますか。
- 柳瀬委員：私の方からは、評価に関して4点ほどあります。前回から大きく改善されて政策局の皆さんの努力には感謝いたしますが、1点目は、KPIについて、各々について分析や主な取組みと成果について細かくしっかり記載するというので、前回のものに比べるとその部分が增強されていますが、1ページ目には、県による一次評価の総合分析にあり、ここには「概ね順調に進んでおります」の下にいくつか項目があるので、主な取組みと成果と同じものになってしまいます。いくつか抜き出すことになるかと思いますが、後半にあるセンテンスが、いくつかピックアップして表に出てくるという形になってしまうかと思います。もしそうであるならば、同じことを2つ書いても仕方ないので、KPIや指標だけでは、外部的環境があるものはコントロールできないので、その辺の説明を踏まえた総合的な評価を入れたらどうでしょうか。県がどうしてもできないことが多々あるので、その辺を踏まえた評価として、重点的に書くのが良いと思います。2点目は、KPIの評価ということで、個々について、しっかりとやっていただけているということですが、主な取組みと成果というところを見ると、「～をしました」「～ができました」とあるのですが、やはりここは、成果としてうまくいかなかったときに、極めて重要だと思いますので、「～ができました」というよりも、どちらかというKPI等が未達の場合、その理由と対策をしっかりと書いてもらうことが良いと思います。資料1の5ページの説明にも、「KPIの達成状況の分析に当たり、できる限り取組みの成果と因果関係を明らかにするよう努める」とありますので、「できた」「できなかった」ことに対し、しっかりとその因果関係を書かれるのが良いかと思います。3点目は、社会環境を表す統計データ等というところで、KPI等を補う様々なデータを載せるということになっていますが、仕方がないこともあるかと思いますが、今回の例から言うと、非常に似ていると思います。例が変われば違うのかもしれませんが、社会環境を表す統計データに「小学生が週3回以上の運動やスポーツを実施する率」とあり、県内のことかと思いますが、指標のところには「子どもの週3回以上のスポーツ実施率」とあります。「小学生」と「子ども」という所しか変わっていないので、社会環境を表す統計データがKPIや指標と似たようなものなので、位置付けが少し分かりにくいのではないかと思います。仕方がない部分もあるとは思いますが、どちらかと言えば、KPIと指標の間、県ができることはKPIで書く、指標は総合的なところで、外部的な要因があつて、県だけではどうすることもできないところもあると思いますので、逆にその辺りのデータをここに設けることによって、1ページ目の説明も納得性が出てくるので、そういうふうに変えられたらどうかと思います。最後に、細かなところですが、「指標の動向」のところ、2019年、2022年の数値がありますが、2018年の値も当初時のものとして入れてもらった方が良いかと思います。
- 清家会長：事務局から何かございますか。
- 佐藤総合政策課長：こちらは記載例ということで、ご指摘にあったように、統計データ等については、重複したような表現や似たようなものにならないように設定したいと思います。
- 池田政策部長：補足いたします。まず、KPIと総合分析の個別の分析が同じようになる点については、

代表的なものが一番上にくるイメージで、今までもやってきていますが、なるべく分かりやすい表記にしたいと考えています。上手くいかなかった事例につきましては、資料2の「KPIの達成状況」のところに分析という欄があり、「目標は達成しませんでした、これは〇〇に取り組みましたが、〇〇が改善できなかったため」といったようにできるだけ達成できなかったことの分析を加えていくことを考えています。それから、社会環境を示すデータについては、県民ニーズや県内の状況、全国の状況が3段階で分かるようになっており、なるべく、現在あるデータを活用していきたいので、指標と同じようなものになる可能性もありますが、全国のデータや県民の満足度などから総合的に評価をするために、データをここに載せるということを考えています。2018年からの指標の動向につきましては検討させていただきたいと思っています。

○ **清家会長**：ありがとうございました。いそもと委員よろしくお願ひします。

○ **いそもと委員**：先ほど、金子委員からSDGsの話がありましたが、そもそも本県が全国の都道府県の中で唯一、国の方からSDGsを推進してくださいとなったわけですが、それ自体がどれくらい県民に知らせることができているのか、SDGsを座標軸とした評価をすることは良いと思いますが、その前に、いかにしてSDGsというものを知ってもらうかが大切です。特に教育の分野では、おそらく、まだ学校の授業でSDGsが取り入れられていないと思いますので、そういったところも考えて、是非ともSDGs自体がどういうものを理解していただきたいです。後追いで、座標軸から入ってSDGsを知ってもらうということもあるかと思いますが、できれば、SDGsについて理解した上で、座標軸として見てもらうのが理想だと思います。新たな目標として今から入れ込むことは難しいかとは思いますが、別のところで考えていただければと思います。

○ **清家会長**：ありがとうございました。金子委員よろしくお願ひします。

○ **金子委員**：かながわブランドデザインのプロジェクト5のエネルギーに関して、反対をしているわけではないですが、この関係の技術革新は非常に激しいものがあり、この指標を永続して持ち続ける意味があるのかは、かなり微妙になっていると思います。特に「B 安定した分散型エネルギー源の導入促進」のところに「ガスコージェネレーションの導入量」とありますが、ドイツではガスコージェネレーションは廃止となっています。再生エネルギーの値段が安すぎて、ガス発電のコージェネレーションをしているシーメンスなどでは、極めて効率の良いガスコージェネレーションを生産していたのですが止めてしまいました。理由は、分散型エネルギー、再生エネルギーが猛烈に増加していて、ガスコージェネレーションが効率的になるには、ベース電源をずっと使っていなければ効率的にならない。ところがガス発電は、ピーク時の電力に合わせて計画的に動かさなければならないので、あまりガスコージェネレーションの威力を発揮していないところがあります。シーメンスはガスを撤退している。日本は、相変わらず、原発依存で頭が変わっていない。ガスコージェネレーションはずっと重視すべき指標かどうかは微妙な気がしています。もう1つ、水素ステーションの設置数ですが、水素はガラパゴス化してしまっています。水素ステーションは建設に4～5億円かかりますし、水素ガスは金属を劣化させるので維持費に年間4～5千万円かかります。なので、水素ステーションの普及については、私は絶望的だと思っています。世界的には電気自動車へのシフトが猛烈な勢いで進んでいて、ドイツのフォルクスワーゲンも生産体制を整えているし、中国も電気自動車へのシフトが進んでいます。水素ガスの自動車が悪いというわけではありませんが、第3期実施計画ではインフラの普及から目標になっていて、これまでもあまりうまくいっていない可能性があり、これからもうまくいく可能性は極めて不透明なものであるかもしれないと思っています。それだけ技術の変化や、製品価格の下落はすごいものがあります。技術が急速に変化していく際に何を目標にするかということについて、留保的な状況を踏まえつつ、弾力的に考えていく必要があると思います。

- **清家会長**：特定の技術にコミットしたような評価指標にしておくと、少し困るような状況も起きかねないのでは、ということでしょうか。
- **金子委員**：可能性が出てきているということです。
- **清家会長**：事務局いかがでしょうか。
- **池田政策部長**：プロジェクト5のページにも記載していますが、かながわスマートエネルギー計画というものがございまして、その中に金子委員がおっしゃられたようなガスコージェネレーションや水素ステーションについても記載がございます。太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入などもその計画に定めておりまして、第3期実施計画においても、かながわスマートエネルギー計画における数値目標を採用しています。金子委員がおっしゃられるように、技術の革新が速い分野は目標値の立て方が難しいと思っておりますが、我々としては、かながわスマートエネルギー計画に基づいてやっていくという整理をさせていただいているところでございます。しかし、実際の場面では、新しい技術が出てくればそれに対応し、弾力的に施策を運営していこうと考えております。第3期計画上はこのような形で整理させていただき、目標数値も立てさせていただいておりますので、今後4年間についてはこの目標値を目指してやっていきたいと考えております。
- **金子委員**：4年間だと少し長いような気がします。ピンぼけな目標になってしまう可能性があるくらい急速に技術が進んでいるので意見を申し上げます。ただ、役所が技術の変化を見通すことはできませんので、エネルギーを取り巻く全体の状況を見据えながら、またこういう留意意見を議事録などに残しながら、スマートエネルギーの動きに敏感に対応していく必要があるというようにしておいたほうが安全なのではないかという意見です。
- **池田政策部長**：毎年評価を行いますので、その際に、目標値とどうかけ離れていくのか、新しい技術はどう活用していけるのか考える材料として、そういった内容を評価報告書に盛り込み、施策に反映させていくように考えていきたいと思っております。
- **金子委員**：トヨタはおそらく水素ガスでやっていきかけたのだと思います。トヨタは部品メーカーの数が多く、そのたくさんのサプライヤーをうまく組織してきたのが強さでした。電気自動車は部品の数がすごく少ないので、トヨタの優位性がありません。そのため水素ガスを選んでいました。おそらく飛ばされてしまう可能性が高いというのが私の意見です。コージェネレーションについても、GE（ゼネラル・エレクトリック）は火力に重点を置いてきたのですが、再生エネルギーの値段が安すぎて、火力は世界的な需要があまりないので、GEも傾いてしまいました。シーメンスは火力でもほぼ撤退に近い形になっています。今の傾向から見ていく限り、この指標は爆発的な再生エネルギーの変化のスピードについていきません。日本にいると分からないが、世界的にはそういう傾向ですので、留意しておいた方が良いでしょう。技術的にそうした動きになるのではないかと私は考えています。もちろん未来のことは完全には分かりませんが。
- **清家会長**：分かりました。それでは、金子委員が言われたように技術がどう変化するかというのはまだ不確定ですので、政策部長も言われたようにおそらく最終的に評価報告書を書くときに「実はこういう前提で政策指標を作ったけれども、技術の変化がこれこれであったため、この指標は必ずしも適当ではなかった。」という形で報告書を書くということもありうるということ。そのような形で整理させていただきます。では他にご意見ございますか。ありがとうございます。それでは、「かながわグランドデザイン 第3期実施計画の進行管理（案）」について、基本的に了承ということにさせていただくことでよろしい

でしょうか。

○ 一同：（異議なし）

○ 清家会長：ありがとうございます。また、細かな文言の調整につきましては、会長にご一任願えますか。

○ 一同：（異議なし）

○ 清家会長：ありがとうございます。そのようにさせていただきます。本日の議題は以上ですが、事務局から連絡事項等がありますか。

○ 高澤政策局長：ご熱心にご議論いただきまして誠にありがとうございました。今回は評価指標が中心のテーマでしたが、我々はグランドデザインの発信を県民の皆様にもっともっと強くしていかなければいけないと思いました。先ほどSDGsに関連して、いつどういう形で伝えるのかというお話もいただきました。お恥ずかしい話なのですが、県ではSDGsに取り組んで最先進県を自負しておりますけれども、SDGsそのものが国民・県民の中で認知度がまだまだ低いという結果が出ております。ですからなぜ神奈川がそういったところに取り組んでいるのか、というところも実際に県民の方々にご理解いただくところまでは我々の取組みがまだ浅くて行き届いていないということを感じています。今回のグランドデザインの計画冊子の中ほどにSDGsのページが埋もれているのではないかというお話もありました。ただグランドデザインでは、神奈川県が今の社会の状況の中、様々な課題をクリアしていくためにどういう戦略を描いてどういうふうに進めていくのかということをお県民の方々に知っていただいて、それに沿って我々の取組みを進め、取組みがどういう状況にあるのかを数値等をもってお示しし、皆様方から頂いた評価を公表する中で県民の方々と議論する、そういったプロセスを踏んでいきたいと考えております。そうした中でSDGsの部分を冒頭から入れていくと、やはりご懸念の部分で、SDGsというものがあって、それに合わせて総合計画、グランドデザインができていくという形で捉えられてしまうと一つのミスリードになってしまいます。そうした考え方で県の総合計画の構成の一部にSDGsを入れております。我々はSDGsを持続可能な社会システムと捉えております。今までと人口ピラミッドも大きく異なってきます。先ほど世の中の仕組みが今までのままで通るかというところとそういう形ではなかなか持たないというお話がありました。そうした考えも入れて我々は全国をリードする形で今までの社会システムだけではなくてこれから持続可能な社会システムに変えていきたい、そういう思いの中で今回のグランドデザインの中に皆様方からのご意見を賜りながらSDGsと上手くマッチングするような形で表現を入れさせていただいたのですが、その部分の発信というところがなかなか県民の皆様、そして委員の皆様方へ充分説明しきれていなかったと反省しております。今回評価で初めて出てきたわけではありませんけれどもSDGsの本旨の「社会、経済、環境」。そういったバランス、そしてそれぞれのプロジェクト、主要施策がそれぞれ突出することなくバランスを持って実現していく、そして先ほどご指摘いただいたように様々な技術革新がありますのでそういったものにも柔軟に対応していく。PDCAサイクルを回すと言いながら4年間計画を頑なに守ります、というのはいかがなものかと思っておりますので、そういったところを入れて柔軟に対応していく、というようなことを今日皆様方のお話をいただきました。今後計画を遂行していく、そして評価を皆様方からしていただいてそれを新たな見直しに繋げていく、そうした中で入れさせていただければと考えております。今回様々なご意見を頂きましてその考え方をいれて評価のところを再整理し、清家会長と詰めさせていただいて、形にしていければと考えております。今回を持ちまして特段の事情がなければ本年度の総合計画審議会が最後となります。清家会長、牛山副会長をはじめ、委員の皆様方に計画づくりから評価をどうしようようにしていくのか、という軌道に乗せていく一番大変な部分を多大なご協力を頂きまして何とか形にしていけることができました。改選から2年の任期ということで第2期実施計画の評価、そ

して点検、そして第3期実施計画の策定をご審議いただきまして本当にありがとうございました。今後も皆様方から頂いたご意見等を心にとどめて全力でプロジェクトを進めていきたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

- **清家会長**：ありがとうございました。それでは以上を持ちまして第130回神奈川県総合計画審議会を終了いたします。皆様お忙しい中ありがとうございました。